

こくろう秋田

2009春闘勝利!

諸課題の前進に向け意思統一

「第一〇回秋田地方本部拡大委員会開催」

二月二日、国労会館を会場に第一〇回秋田地方委員会が開催された。神谷副委員長の開会挨拶の後、秋総車七支部佐賀幸二委員長を議長に選出し議事を進行。執行委員会を代表し瀬下委員長は下記の内容の挨拶を行った。

東日本本部からは武田組織部長が参加し、JR不採用事件の解決環境作りのためにやるべきことを全力で、中労委斡旋申請の経過と今後の取り組み、安全問題と「効率化」施策に対する点検・検



証の重要性

内部留保
活用で09
春闘勝利へ、

組織拡大
の可能性と
具体的取り
組み、信



濃川取水問題などのコンプライアンスなどについて挨拶と情勢報告を行った。渡邊書記長の経過報告と方針提起を受けて委員からの発言ではエルダー社員の組合費を安くして欲しい。組織拡大については会議の中で必ず触れるようにしている。それが今回の結果に結びついたのでは。他分會でも結果が出るようにお互い奮闘しよう。一五日の奥羽線落雷事故復旧における指令の判断や技術力の問題。団交経過についてこまめに情報を。湯沢地区4駅の委託解消について。エルダー制度で地元へ受け入れ先がない場合の問題点などが出された。

国鉄労働組合
秋田地方本部
(秋田市中通
7丁目-2-21)
018-832-3775

発行責任者 一司 浩一
編集責任者 佐藤 浩一

討論を受け、書記長が「JR不採用事件の当面する取り組み、組合間差別解消に対する取り組み「合理化」労働条件改善、組織拡大・強化について集約を行い、全体の拍手で方針が承認された。最後に、瀬下委員長の「団結がなばろう」で終了した。

執行委員長挨拶(要旨)
春闘情勢について
金融危機と引き続く経済危機の下、日本においては戦後最大という異常な景気落ち込みを記録している。大企業は膨大な「内部留保」を抱えながら、この危機を非正規雇用労働者の雇い止めを始めとする人員削減などで労働者に転嫁しようとしている。日本経団連は労使一丸論を唱え、雇用優先、賃上げ論外という立場をとっている。連合は8年ぶり公要求。また、非正規雇用の雇い止めに対して組合結成による撤回の闘いなど、これまでになく新しい闘いが生まれているのも今春闘の特徴。国労は賃上げ2万円などの要求書を9日に会社に提出し、回答指定日を三月十七日とする申し入れを行ってきた。

一方、政局は極めて不安定で、麻生政権は迷走を



続け、支持率は一〇%を割るといふ調査結果も出ている。そつした意味で今年行われる総選挙は今後の日本の進路にとって重要な意義を持つており、政治転換の可能性も拡大している。

JR不採用事件の解決について不採用からすでに二年。この間、冬柴発言を受けた与党公明党の対応委員会設置、や金子大臣の国会答弁などから、本部は解決環境は整っており、あとは政府の決断一点であるという判断。年度末にかけて政府に決断を迫る闘いを集中して展開することを決定し、取り組んでいる。先日2、16集會は民主党鳩山幹事長をはじめ共産、社民、国民新党国会議員に加え、公明党からも代表が参加するなど、解決に向けた前進を勝ち取ることができた。

地方自治体決議はこれまで781自治体、1162本に達している。地方においてできることとして更に前進させることが重要。地本としてもこれまで秋田市、潟上市、男鹿市などに対する取り組みに着手しているが更に広げ政治解決への後押しをしていくことが求められている。

職場における差別是正の闘い
昨年9月東日本本部として中労委にあつせん申請を行った。当初、会社側はあつせん申請に応ずるとしていたものの中労委との事前協議の途中で突然態度を変え、暗礁に乗り上げた状態になった。東日本本部としては先の定期委員会において中

労委の判断にゆだねるとする書記長集約を承認決定した。今後は地方における具体的事象について更に調査を行い東日本本部、地方一体となった取り組みが重要になってくる。

職場の闘いと組織拡大
秋田総合車両センター支部において初めての国労加入を実現した。東日本全体では大会以降16名が国労に加入している。

新規採用者や平成採も含め日常的な繋がりの中から仕事や職場の問題点を共有化し、組織の信頼を勝ち取ることが大切だ。また、契約社員や協力会社社員など待遇や所属が違っても仕事を通じた問題は共有化することはできる条件のある職場から、もう一人の国労加入に向けて奮闘しよう。

「労働組合は今が旬 ピンチからチャンスにチェンジを」

二十日、社員集會所において、支部春闘集會が組合員五十名の参加で開催されました。今回の集會は「未組織労働者の組織化と労働組合の役割、あなたは「クビ」と言われたら...さてどうする?」というテーマで、いわてローカルユニオン委員長の工藤和雄さんから講演を受けました。

冒頭、高橋支部委員長から「組織拡大の報告と訴え、春闘をめぐる情勢と今後の闘い」について挨拶があり、講演は「署名とおふくろさん」という曲から入るといふ、今までにないやり方でビックリ。

信濃川取水問題で東日本清野社長が謝罪。経営方針にコンプライアンスを謳いながら不正を行っていたという事実は会社の社会的信頼を失墜させるものであり、多くの社員が衝撃を受けたところだ。また、昨年来から続いた協力会社社員の傷害、死亡事故や相次ぐ輸送障害などは行きすぎた「外注化」「効率化」のしわ寄せではないか。

今こそ労働組合の真価が問われている。労働組合としての社会的責任を果たすべき時。今日の労働をめぐる過酷な状況の中で多くの非正規雇用や未組織労働者が我々組織労働者の闘いを注目し、期待している。組合員の目線に立ち、一人ひとりの英知とスキルを結集しながら諸課題の前進をめざしていくことを訴える。

講演の内容は、これまでの春闘の生い立ち、労働基準法の解説やこれまで実際に労働相談されてきた例などを具体的に話がされ、今職場と地域で起こっていることが手に取るようにわかりました。

最後に、「よりよい社会をつくるために奮闘しましょう。困った時は、労働相談センターへ相談してください。一人一人が相談員になりましょう。」と話がされました。(秋総車七支部「支部日報」一七三六号より)